農村住民にもっと知らせよう

三浦　照男（アーシャ理事・インドプロジェクト責任者）

「浅く広くプロジェクトを展開するより、もっと顔の見える信頼関係を密にしよう。」信頼関係が無いところで新しい考え方、技術を普及しようと思ってもプラスチック版に水彩絵の具で絵を描いたように、きれいさっぱり消えてしまう。私たちはこのような失敗を嫌になるほど体験してきました。だからこそ、冒頭に述べた活動アプローチを強化し、私たちの活動方針にしてきたのです。

しかし、信頼関係を密にするということは思った以上に、大変な労力と時間がかかります。更に、村、組織、人を特定し、それらの関わりが深くなればなるほど、他の住民の嫉妬や妬みが深くなってくるというジレンマに陥ることもしばしばです。「何故、あんたたちは同じところでしか活動しないんだい。おれたちの集落にもきてくれよ。」数年前から時折聞かれる住民の訴えるような声が聞こえてきます。この弊害を少しでも取り除こうと、今年５月と７月、事業対象地域の周辺集落の住民に対し、私たちのプロジェクト説明集会を催し、多くの住民の参加を促すことにしました。

特に要望の強かった１０ヵ村を集会開催地として選びました。当日、各集会にはプロジェクト担当スタッフ５－７名。４０℃近い猛暑の中、集まってくれた住民は１００名から１５０名程でした。各担当スタッフ等が農業普及、農村組織化、収入向上、農村教育、農村母子保健等の活動について住民に熱のこもった説明をしました。それらに対し、住民がどのような感想を持ったか、今住民と私たちが取り組めそうな事は何か等の意見交換をしました。また、私たちは特定な場所や個人に固執しそれに満足しているのではないということ、また人材育成を促進し、モデル的な農村環境を整えることによって、近隣住民も学びやすい環境が得られるのだということを理解されるよう努めました。

住民に対するプロジェクト説明集会。
於ビルワル村。

育成された農村住民が農村生活に夢と希望を抱き、有効な技術やビジョンを周辺村にも伝えてくれる。更には、この広がりが平和を生み出す活動であることをみんなが誇りを持って活動に参加する。これらは私たちの願いです。住民との信頼関係を密にしつつも、住民に対する活動説明を丁寧に行う。この姿勢を私たちは活動の一つの柱としたいと考えています。